



特定非営利活動法人

# 医学統計研究会

Biostatistical Research Association

Newsletter No.12 (141)

2015.12.25

2015年も残り数日となりました。加齢とともに「一日が長く一年が早い」と感じるようです。「瞬間」に1年が終った感じですが、今年一年、会員の皆様には、諸種の行事と事業にご協力いただき、ありがとうございました。おかげ様で実り多い一年であったと感じています。来る年が皆様にとって佳い年でありますように祈念いたしております。

1 ウィンター・フォーラム2015が以下の次第で開催されました[敬称略].

## (1)活動報告会2015

日時：2015年12月5日(土) 10時00分～17時40分.

会場：千里朝日阪急ビル 第1会議室

プログラム：

開会挨拶：松原義弘

座長：松原義弘・勘場 貢・藤澤正樹・河合統介・磯村達也

閉会挨拶：白旗慎吾／指導・討論：澤 淳悟・越智義道

- 吉川隆範：2015年を振り返って
- 池田敏広：Modeling pharmacokinetic data using heavy-tailed multivariate distributions
- 吉田 歩：線形関係式の推測と実際（国際ガイドラインの紹介）
- 尾崎寿昭：形状不変モデルの適用とその評価
- 萩原駿祐：INLA の新たな適用
- 中村将俊：Trees GARROTE
- 後藤昌司：計画と遂行の過程 2015
- 山口祐介：メタ・アナリシス近況
- 五十川直樹：2値応答の複数の臨床試験結果を利用する Meta-Analytic Prior および Joint Power Prior の性能評価.
- 大江基貴：ROC 研究の現況
- 永久保太士：経時対応データの解析：相対効果とその信頼区間
- 米山昭成：2014 年末から 2015 年までを振り返って
- 吹谷芳博：R および SAS の文芸的プログラミングについて
- 池田公俊：負の 2 項回帰モデルの症例数設定
- 丸尾和司：連載稿に拾う話題

- 尼ヶ崎太郎：最近の勤行から
- 衛藤俊寿：1年振り返り：My “OYKOT” Life
- 志賀 功：別府と名古屋での生活
- 高瀬貴夫：最近の勤行から
- 河合統介：2015年を振り返って
- 武田健太朗：研究活動報告 2015
- 藤澤正樹：研究と勤行の過程 2015
- 魚井 徹：2015年を振り返って





—活動報告会2015のひとこま—

(2)納会2015

日時：2015年12月5日(土). 18時30分～21時30分.

会場：順平



—納会2015でのひとこま—

2 定例研究会[東京]2015-12-17が以下のとおりに開催されました[敬称略].

日時：2015年12月17日（木）. 13時30分～17時.

会場：ファイザー株式会社 23E03会議室

演者・演題：

五十川直樹. 2値応答の複数の臨床試験結果を利用するMeta-Analytic PriorおよびJoint Power Priorの性能評価.

丸尾和司. 経時データにおけるベキ変換に基づく中央値の差の推測について.



河合統介. 最近の話題から.

藤澤正樹. 観察研究について

松原義弘. 癌領域の第Ⅱ相試験デザイン:後藤先生のご指摘に関して

後藤昌司. 「新青年の哲学」から

課題検討会は「みょうがや」で開かれ, 8名の方々が参加されました. 来年にかけての抱負などの課題で熱く楽しい議論が交わされました.



— 定例研究会[東京]2015-12-17のひとこま —

③ 冬季セミナー鹿児島2016が [科学研究費C『医学分野における非線形回帰法の理論と応用に関する研究集会』(研究代表者: 下川敏雄)] との共催で開催されます [敬称略].

日時: 2015年1月23日 (土) 9時30分~17時

会場: 鹿児島県文化センター: 第5会議室

開会挨拶: 後藤昌司 / 閉会挨拶: 勘場 貢

座長: 米山昭成・松原義弘・藤澤正樹・越智義道

指定討論: 藤崎恒晏

プログラム:

明石弥樹 (榊新日本科学 PPD):

臨床試験におけるデータの統一化とバリデーション方法について

吹谷芳博 (榊エスアールディ): 臨床試験における解析用データについて

金子就二 (榊新日本科学 PPD): 大動物における群飼育のもたらす影響

尾崎寿昭 (日本製薬株): 形状不変モデルの適用とその評価

杉本知之 (弘前大学): 北から南へ-これまでのこと・これからのこと

中村将俊 (大日本住友製薬株): Trees GARROTE

米山昭成 (榊新日本科学 PPD): 曲線分解の実践的応用

下川敏雄 (和歌山医科大学): 競合リスクを伴う生存時間データに対する樹木構造接近法

松原義弘 (特定非営利活動法人 医学統計研究会):

あるデータ解析から-要介護認定者にならないために-

河合統介 (ファイザー株式会社):

Coefficients of determination in logistic regression models

池田公俊（ノバルティスファーマ）：負の二項モデルにおける症例数設計

坂本 亘（岡山大学）：潜在 Gauss 型モデルによる環境データの解析

4 今後に予定されていますシンポジウムなどを以下に記します。ご参集をよろしくお願いいたします。

(1) 特定主題シンポジウム2016が開催されます。プログラムは以下のとおりです[敬称略]。

日時：2016年1月30日（土）. 10時00分～17時30分.

会場：アステラス製薬(株) 日本橋本社 8階ホール

プログラム：

- ・開会の挨拶 廣岡秀樹（アステラス製薬株式会社）
- 座長 松原義弘（特定非営利活動法人 医学統計研究会）
- ・バイオマーカーの情報をういたがん臨床試験デザイン 福田武蔵（アステラス製薬株式会社）
- ・連続的な予測バイオマーカーに基づく臨床試験デザイン 大和田 章一（第一三共株式会社）
- ・バイオマーカー評価の統計的方法について 林 賢一（慶応義塾大学）
- 座長 河合統介（ファイザー）
- ・個別化医療の推進に向けたバイオマーカーの臨床応用 仲條郁美・竹下 滋（アステラス製薬株式会社）
- ・Proof of Concept 試験におけるバイオマーカー探索の課題 山本英晴（中外製薬株式会社）
- ・臨床試験におけるサロゲートエンドポイントの利用と妥当性評価 大庭幸治（東京大学）
- ・パネルディスカッション 座長 武田健太郎（アステラス製薬株式会社）
- ・閉会の挨拶 後藤昌司（特定非営利活動法人 医学統計研究会）

(2) 大分統計談話会・第53回大会が以下の次第で開催されます[敬称略]。

日時：2016年2月9-10日（火-水）.

会場：富士通大分システムラボラトリ

プログラムは既に配信中です。ここでは、特別講演のみを以下にご紹介します[敬称略]。

・特別講演1(2016年2月9日)

柴田大朗：がん領域の臨床試験への生物統計学の関わり－治療法評価の動向と課題－

・特別講演2(2016年2月10日)

高沢 翔：抗がん剤第I相試験における用量探索方法－Interval Method を中心に－

下川敏雄：競合リスクを伴う生存時間データに対する影響要因の探索

5 2015年の結びにあたり、本年の「活動実績」の一端をご報告いたします。本年に、シンポジウムは4回、セミナーは2回開催され、総計270名（有料参加者167名、講師・スタッフ57名、協力会社聴講者26名）の方々にご参加いただきました。各シンポジウムとセミナーの開催テーマ、開催場所、参加者の内訳は下表のとおりです。有料参加者の会員別内訳では、非会員100名（述べ109名）、賛助会員28名（述べ29名）、正会員13名（述べ20名）、一般会員5名（述べ9名）でした。これらの10%にあたる15名の方々には複数回（2回10名、3回4名、4回1名）参加していただきました。ご講演いただいた諸先生、および参加・聴講いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。今後

とも、ご支援の程をよろしくお願いいたします。

開催テーマ	開催場所	有料参加者	講師スタッフ	聴講者
特定主題シンポジウム (2015. 2. 7) 「臨床評価における Bayes 流接近法」	アステラス製薬(株) 日本橋本社別館	40 名	15 名	8 名
特定主題シンポジウム (2015. 6. 20) 「臨床評価における統計的経験則」	エーザイ (株) 小石川ナレッジセンター	20 名	10 名	5 名
特定主題セミナー (2015. 8. 6-7) 「臨床評価におけるデータマネジメントの過程」	生涯学習センター ばるーん	16 名	7 名	
特定主題シンポジウム (2015. 8. 8) 「臨床評価におけるデータの整備と標準化： CDISC の実践と課題」	第一三共 (株) 本社 A 館	41 名	15 名	5 名
定例シンポジウム (2015. 10. 24) 「医療で必要とされる統計的基礎知識」 - 観察研究の基礎：疫学と統計の接点 -	ファイザー (株)	38 名	8 名	8 名
特定主題セミナー (2015. 11. 14) 「臨床評価における計算環境 R とその課題」	豊中市中央公民館	12 名	12 名	

編集後記：今年は、安倍政権の押し進める施策で「日本の国力」とか、日本の影響力の大小を意識させる年になったようである。このとき、安岡正篤師(故人)の説く「民族滅亡の3原則」は注目に値する。それは以下のとおりである：

- ① 理想（夢）を喪った民族.
- ② すべての価値をもので捉え、心の価値を見失った民族.
- ③ 自国の歴史を忘れた民族.

日本人として、後続につなぐ教訓として留意しておくことが重要であろう・・・・・・・・・・・・・・・・名和田 潜



Newsletter 編集：

後藤昌司・松原義弘・坂本 亘・富金原 悟・河合統介・藤澤正樹・杉本知之・大門貴志・伊藤雅憲・吉川隆範  
 連絡先：医学統計研究会 事務局 [吉田 舞・後藤 孚]  
 〒560-0085 豊中市上新田2丁目22-10-A411号  
 Tel & Fax : 06-6835-8790 / e-mail : bra\_goto@ybb.ne.jp / URL: <http://www.bra.or.jp>

本ニューズレターの転載は全文・部分を問わず禁止させていただきます。